

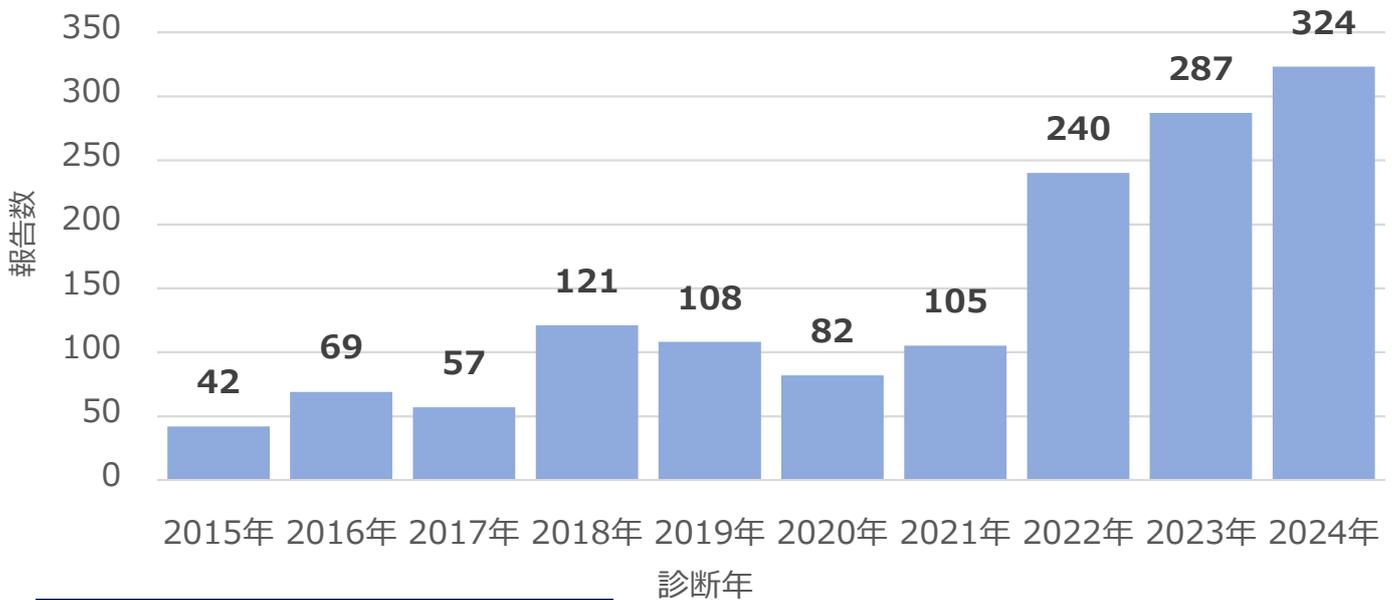
# 感染症発生動向調査により届け出られた 茨城県における梅毒の概要（2024年まとめ）

茨城県感染症情報センター

## 茨城県の梅毒報告数の推移

- 茨城県内における梅毒報告数は、4年連続で増加し、**2024年の報告数は324例と過去最多を更新した**

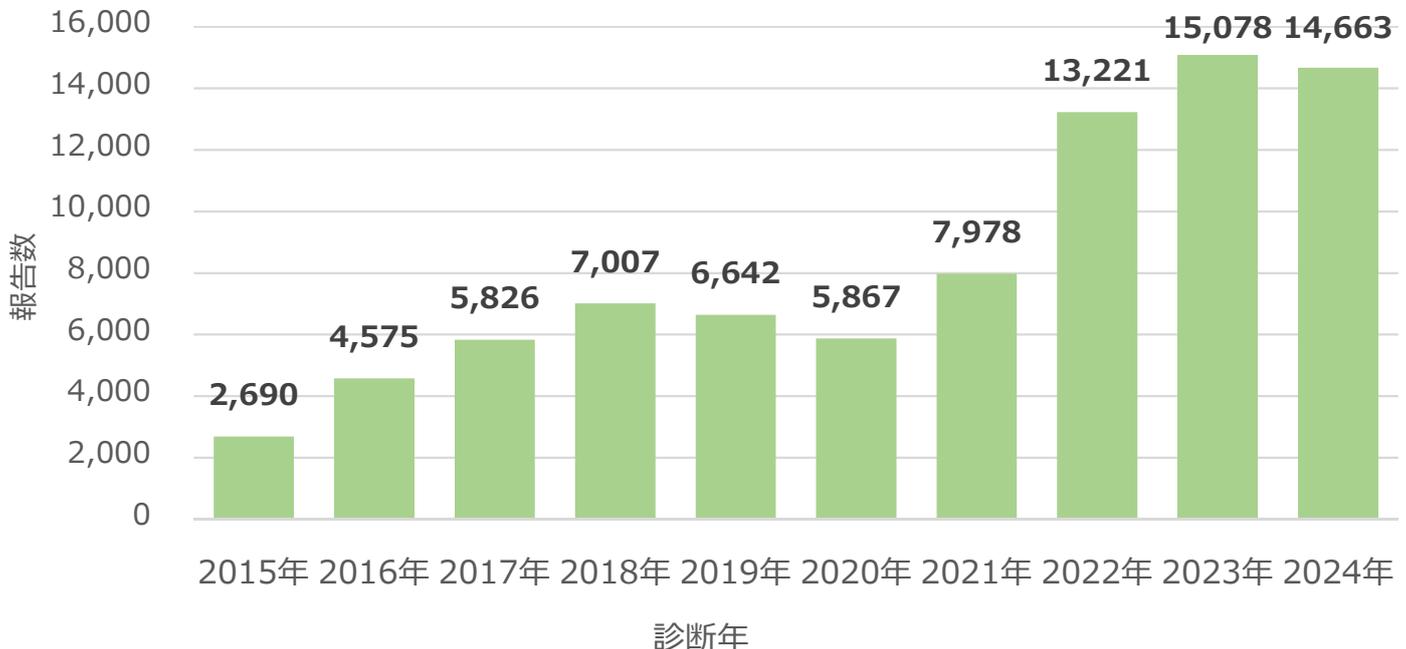
茨城県内における過去10年間の梅毒報告数（2015年～2024年）



## 全国の梅毒報告数の推移

- 2024年の国内の梅毒報告数は前年と比較すると**やや減少した**

国内における過去10年間の梅毒報告数（2015年～2024年）



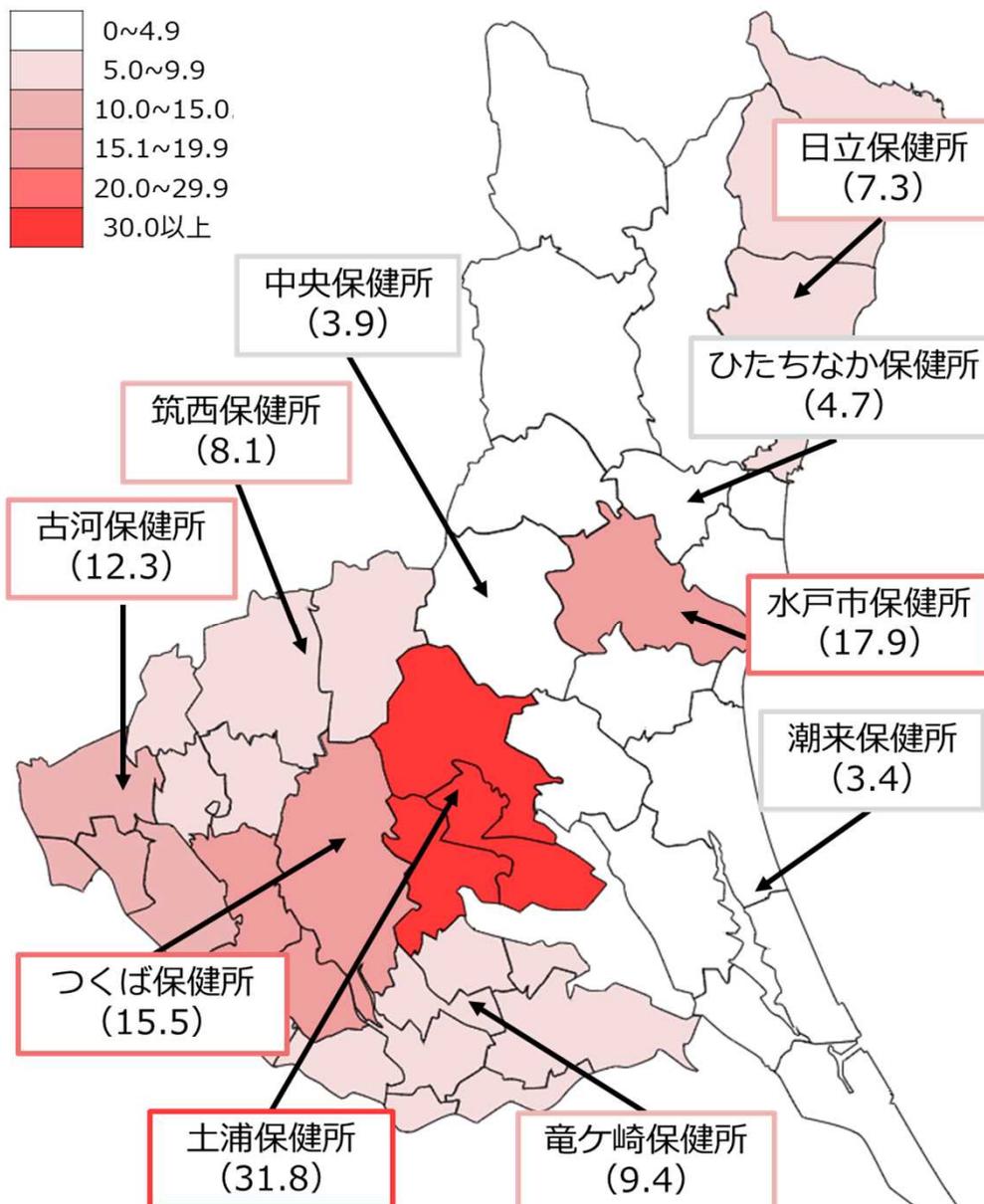
## 管轄保健所別 梅毒報告状況

- 2024年の管轄保健所別の梅毒報告数は、土浦保健所が80例と最も多く、県内の届出の25%を占めた
- 人口10万人当たり梅毒報告数は、土浦保健所が31.8と最も高く、水戸市保健所（17.9）、つくば保健所（15.5）の順に高かった

茨城県内における管轄保健所別 梅毒報告数（2024年）

	中央	ひたちなか	日立	潮来	竜ヶ崎	土浦	つくば	筑西	古河	水戸市	計
男	2	13	14	7	24	62	47	15	15	35	234
女	5	3	3	2	19	18	10	5	12	13	90
計	7	16	17	9	43	80	57	20	27	48	324

管轄保健所別 人口10万人当たり報告数（2024年、n=324）



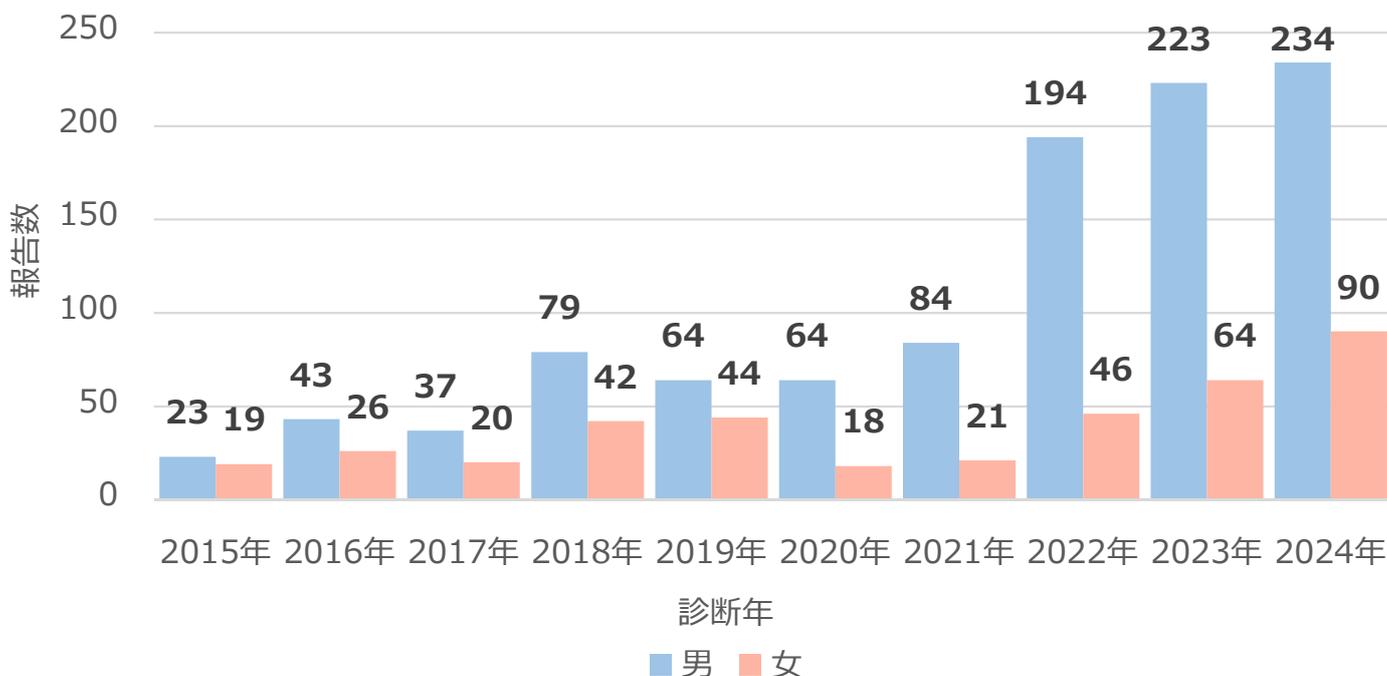
※ ( ) 内は人口10万人当たり報告数

※ 人口は「茨城県の人口と世帯(推計)2024年1月1日現在」を使用

## 性別 梅毒報告状況

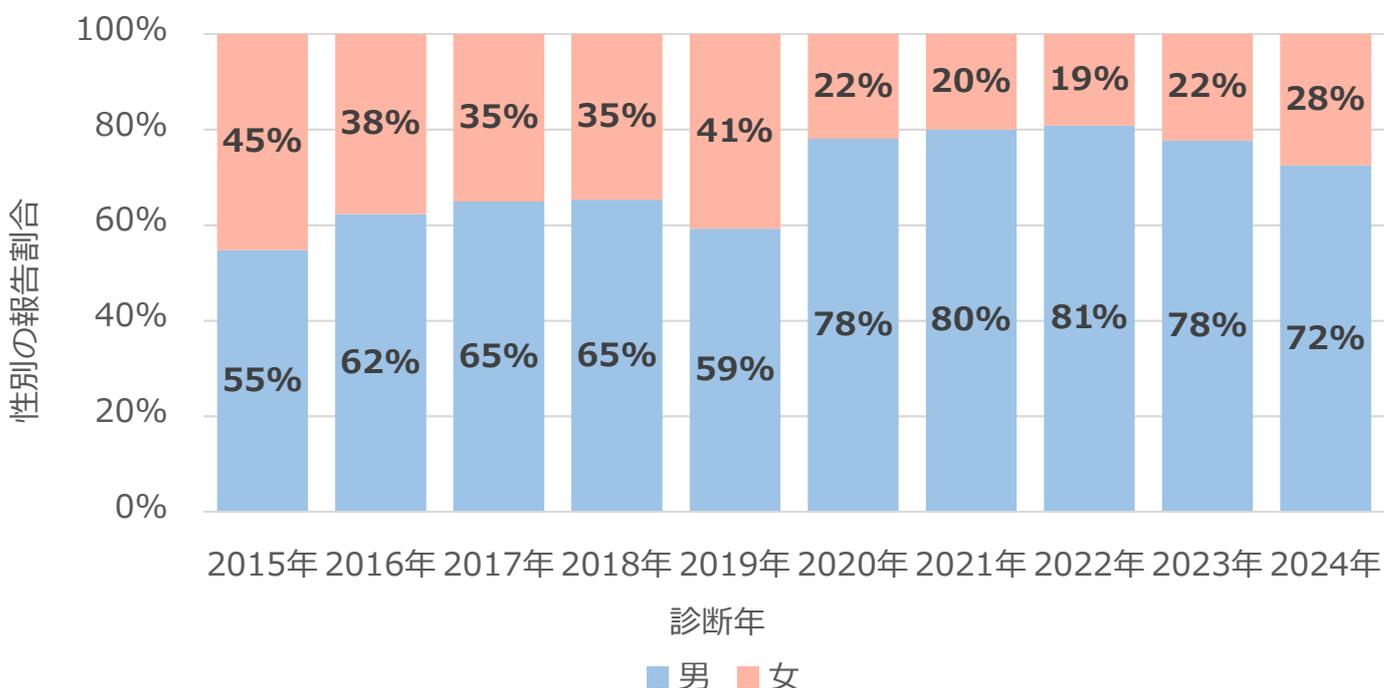
- 2020年以降、**男女ともに4年連続で報告数が増加**しており、梅毒報告数が急増した2022年は男女ともに前年比2倍以上に増加した
- 2024年の梅毒報告数は、男性は前年比1.05倍、女性は1.41倍と**女性のほうが増加割合が高かった**

性別 梅毒報告数（2015年～2024年）



- 2020年以降の梅毒症例の男女比は、おおむね男性80%、女性20%であったが、**2024年は女性の割合がやや増加した**

性別 梅毒報告割合（2015年～2024年）

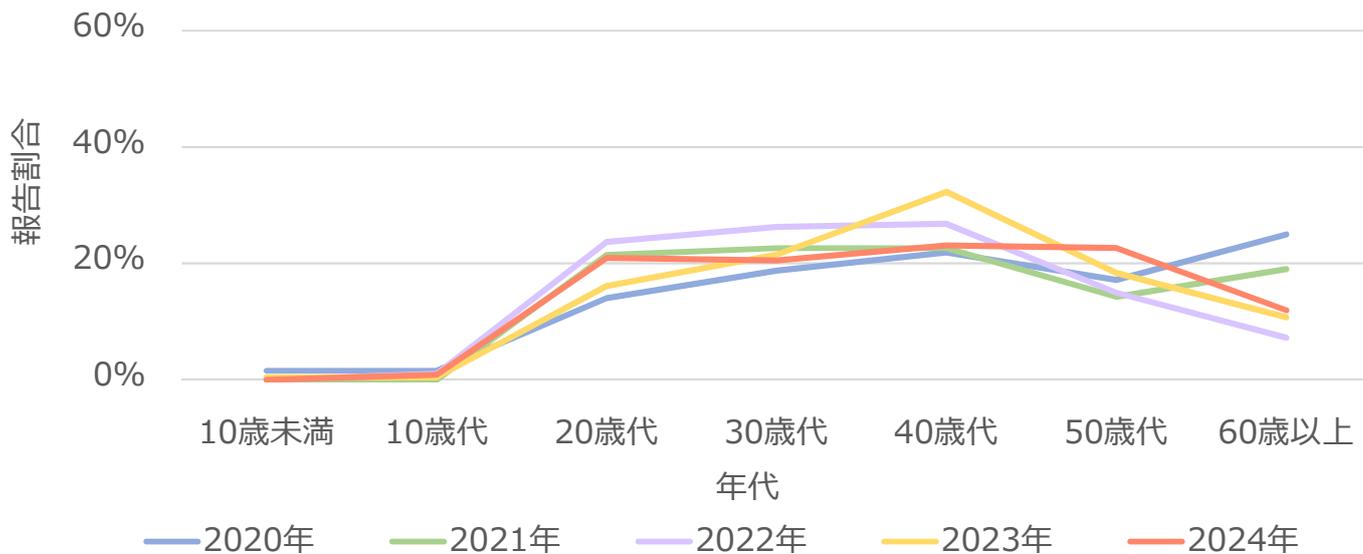


## 年代別 梅毒報告状況

### 【男性】

- 2024年に報告のあった男性梅毒症例の年代別割合は、20歳代・30歳代・40歳代・50歳代が各20%程度と、**おおむね例年と同様の傾向**であった

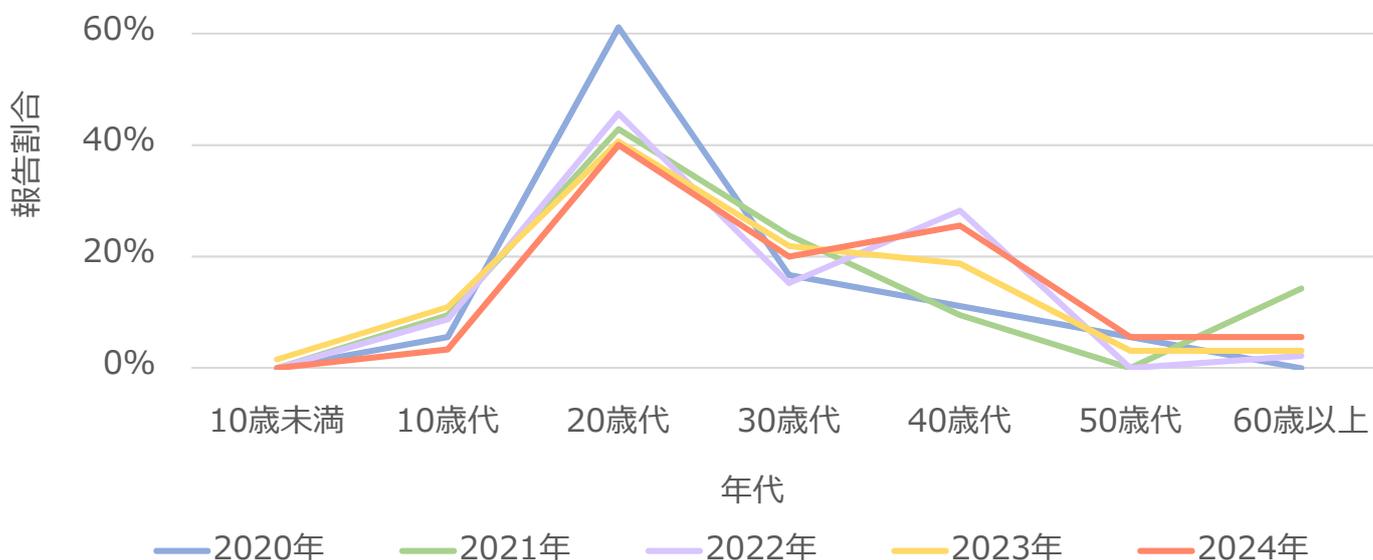
男性の年代別 梅毒報告割合（2015年～2024年）



### 【女性】

- 2024年に報告のあった女性梅毒症例は、年代別には20歳代の割合が最も高いが、**20歳代の割合は2020年以降最も低く、40歳代・50歳代・60歳以上の割合が増加した**

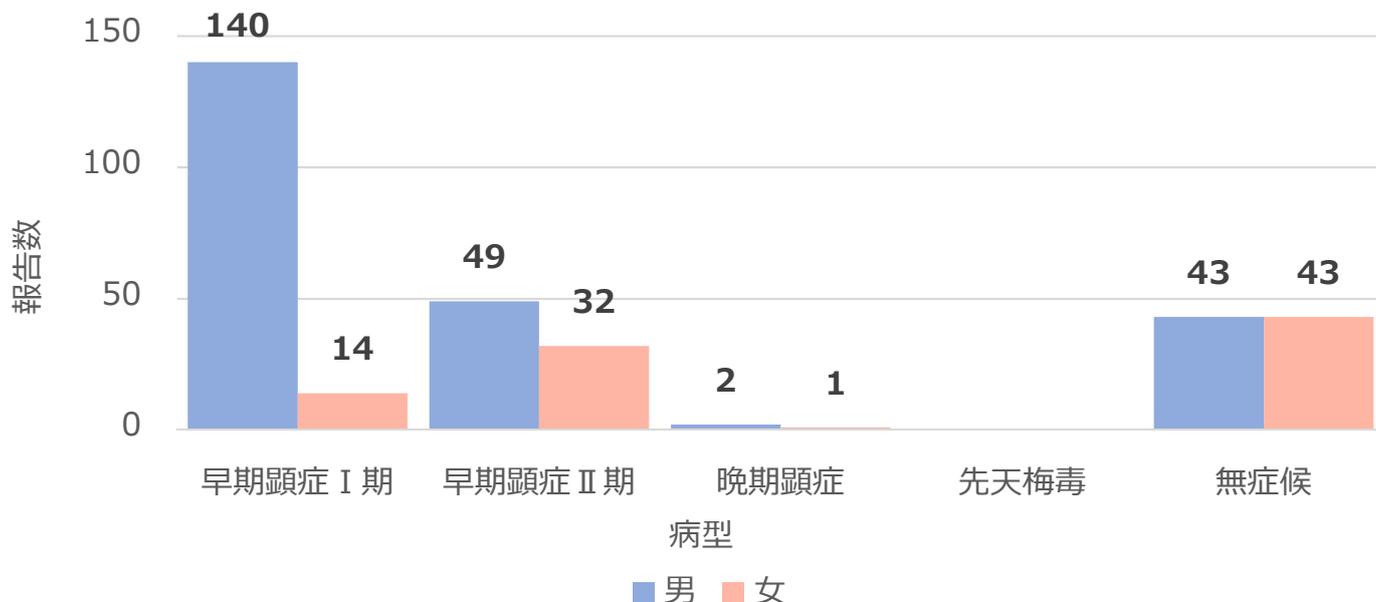
【女性】年代別 梅毒報告割合（2015年～2024年）



## 病型別 梅毒報告状況

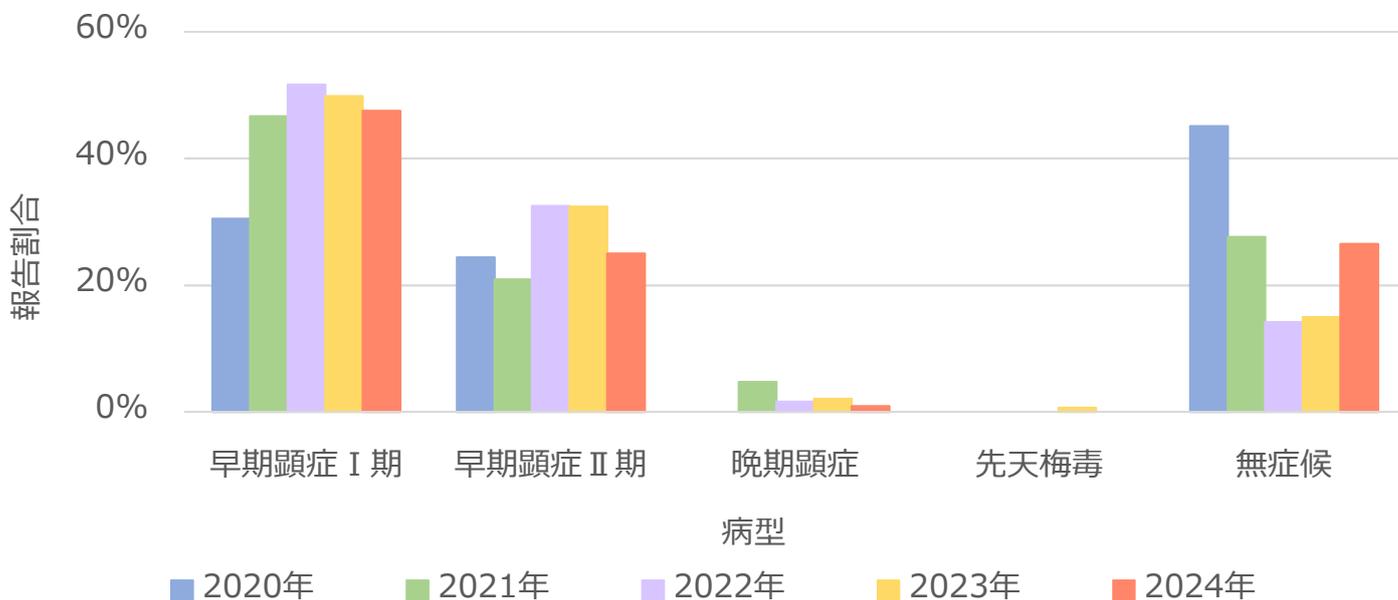
- 梅毒症例の病型について、下記のとおり性別による違いがあった
  - ・男性：**早期顕症Ⅰ期**（60%）が多かった
  - ・女性：**無症候**（48%）、**早期顕症Ⅱ期**（36%）が多かった

茨城県内における性別・病型別 梅毒報告数（2024年、n=324）



- 2024年に報告のあった梅毒症例は、前年と比較すると、「**早期顕症Ⅰ・Ⅱ期**」の割合が減少し、「**無症候**」の割合が増加した
  - ・早期顕症Ⅰ期（2023年：50% → 2024年：48%）
  - ・早期顕症Ⅱ期（2023年：32% → 2024年：25%）
  - ・無症候（2023年：15% → 2024年：27%）

病型別 梅毒報告割合（2020年～2024年）

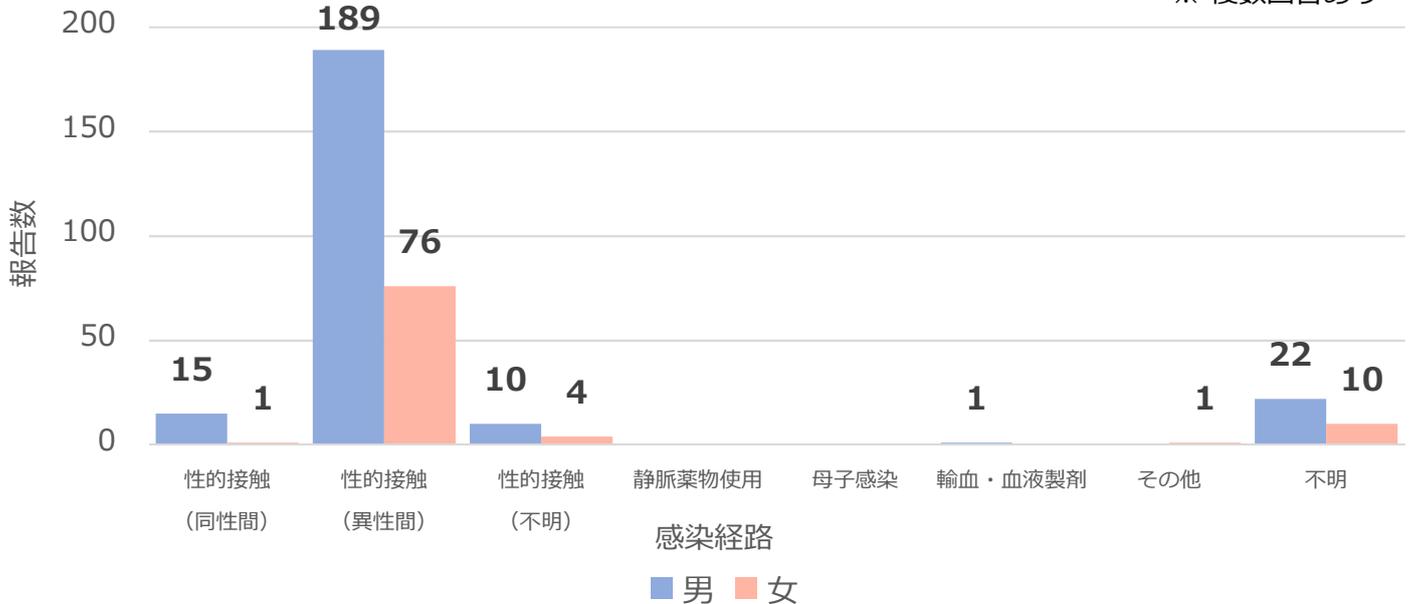


## 感染経路別 梅毒報告状況

- 2024年に報告のあった梅毒症例の感染経路は、男女ともに「異性間の性的接触」が最も多かった
- 男性のうち6%（15例）は「同性間の性的接触」であった

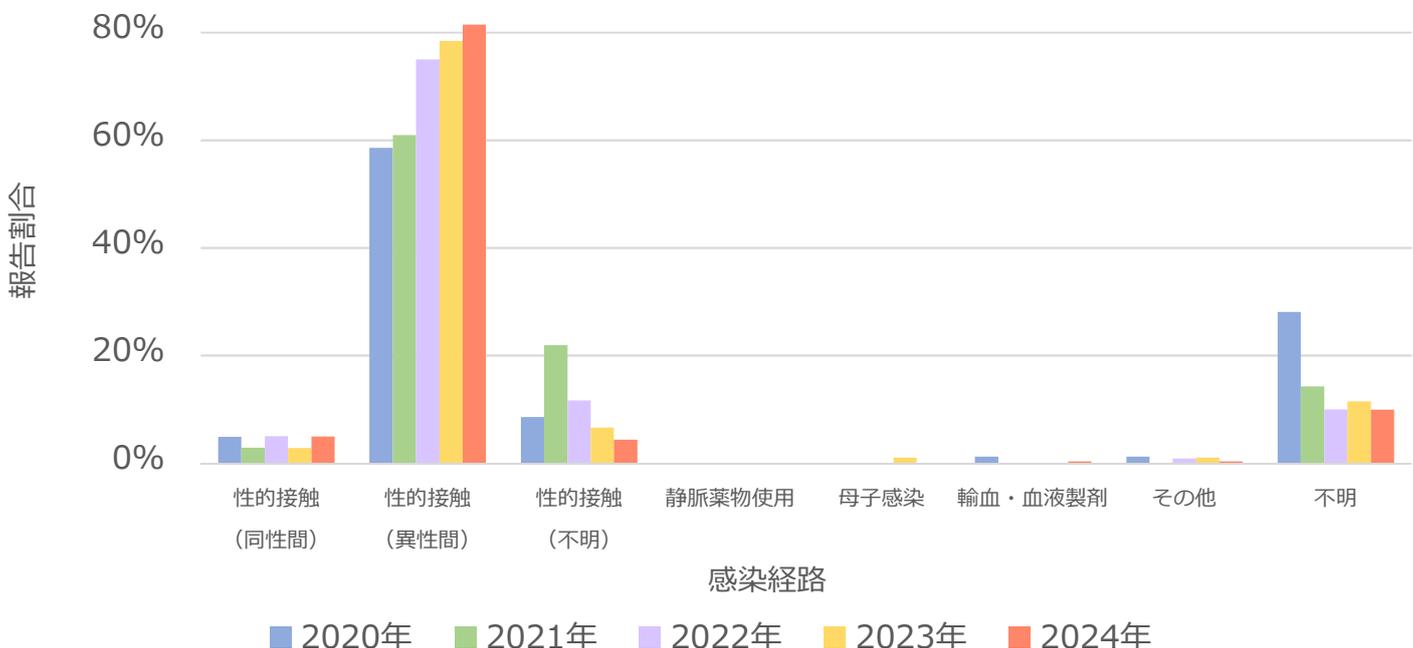
茨城県内における感染経路別 梅毒報告数（2024年、n=324）

※ 複数回答あり



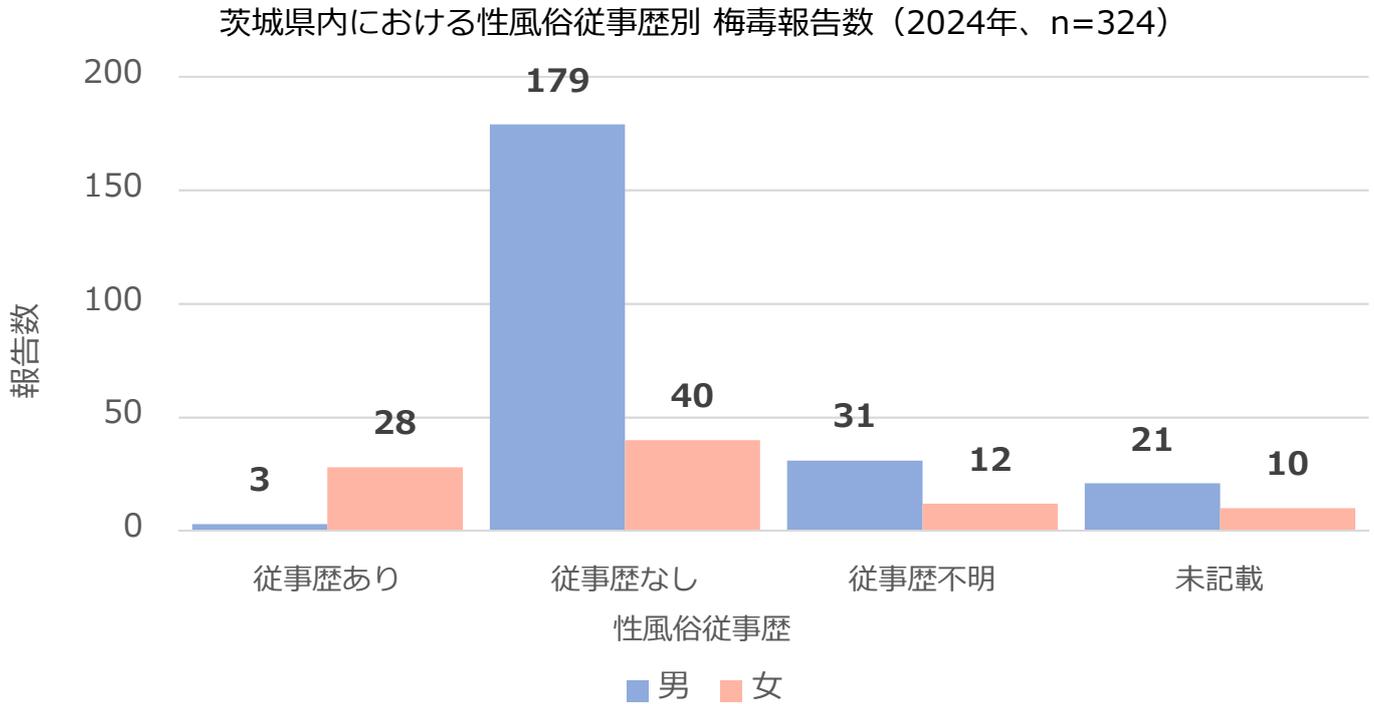
- 「異性間の性的接触」の報告割合は年々増加しており、2024年は81%（264例）と2020年以降、最も高かった

感染経路別 梅毒報告割合（2020年～2024年）



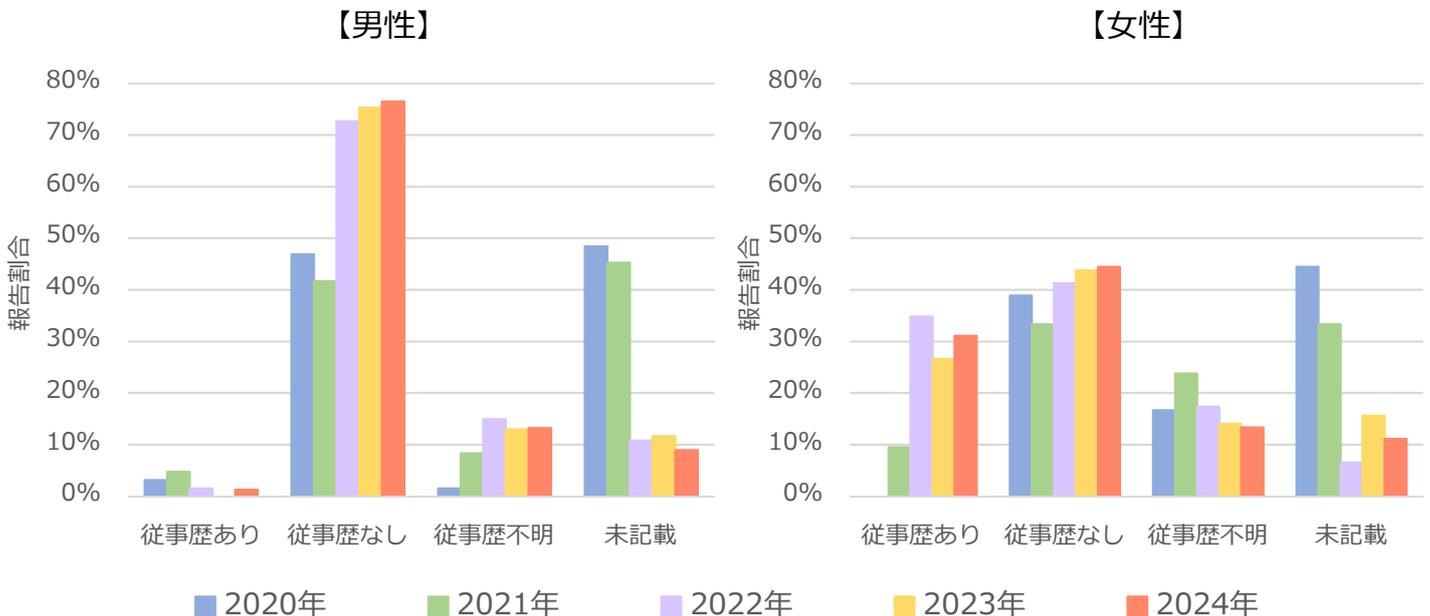
## 性風俗産業従事歴別 梅毒報告状況

- 2024年に報告のあった梅毒症例のうち、性風俗産業従事歴ありの男性は3例（1%）、女性は28例（31%）と**女性に多かった**



- 性風俗産業従事歴ありの割合は、いずれの年も女性のほうが高く、男性は5%未満、女性は30%前後で推移している
- 2024年に報告のあった梅毒症例のうち、性風俗産業従事歴ありの女性の割合は前年と比較するとやや増加（27% → 31%）した

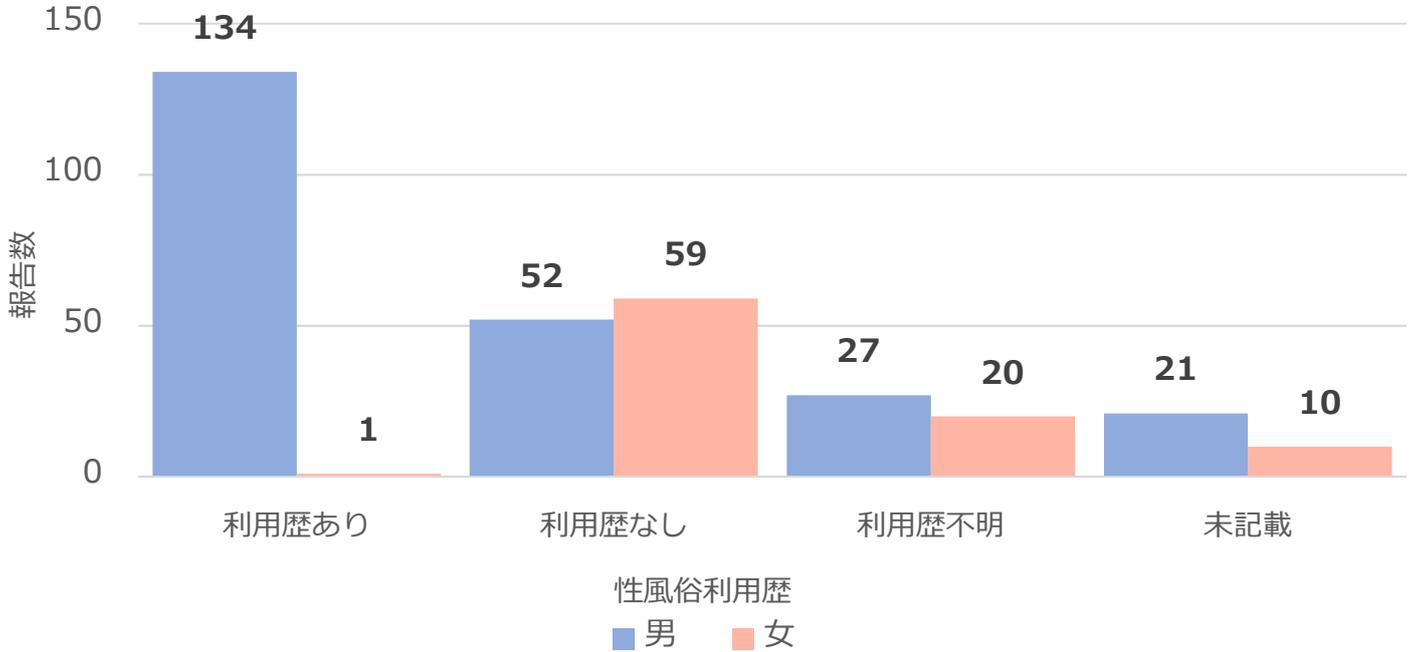
性風俗産業従事歴別 梅毒報告割合（2020年～2024年）



## 性風俗産業利用歴別 梅毒報告状況

- 2024年に報告のあった梅毒症例のうち、性風俗産業利用歴ありの男性は132例（57%）、女性は1例（1%）と**男性に多かった**

茨城県内における性風俗利用歴別 梅毒報告数（2024年、n=324）

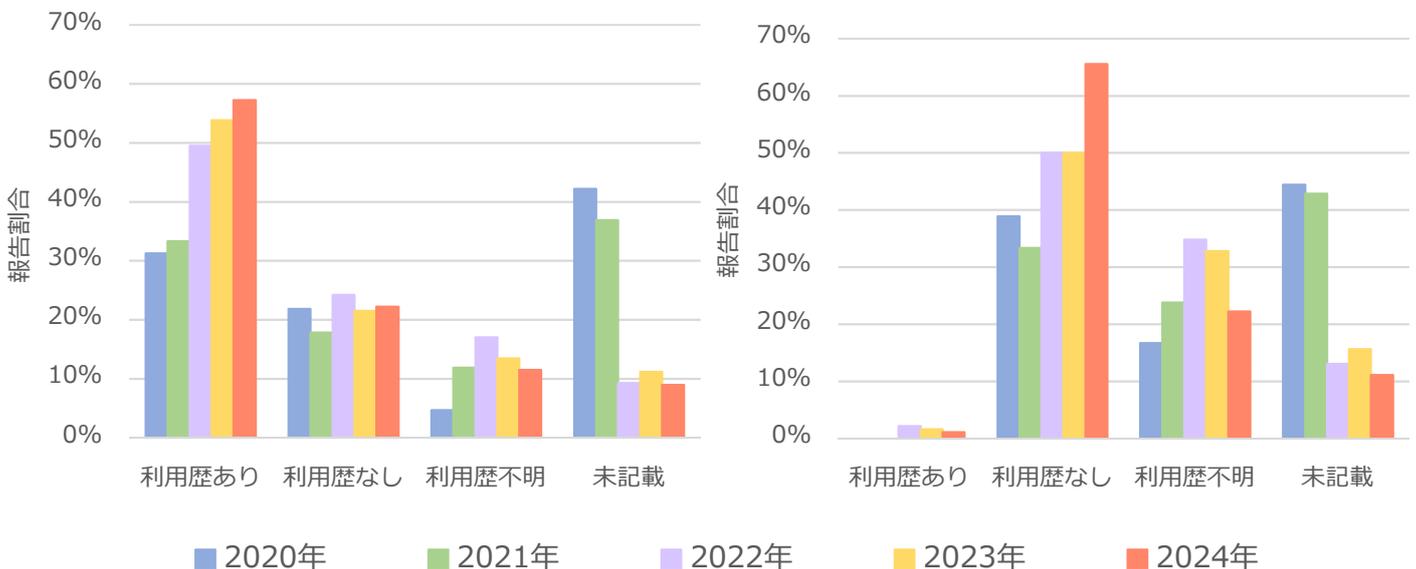


- 2020年以降の性風俗産業利用歴ありの男性症例の割合は、年々増加傾向にあり、2024年は57%（134例／234例中）であった
- 一方、梅毒女性症例は、利用歴なしの割合が増加傾向にあり、2024年は66%（59例／89例中）が利用歴なしであった

性風俗産業利用歴別 梅毒報告割合（2020年～2024年）

【男性】

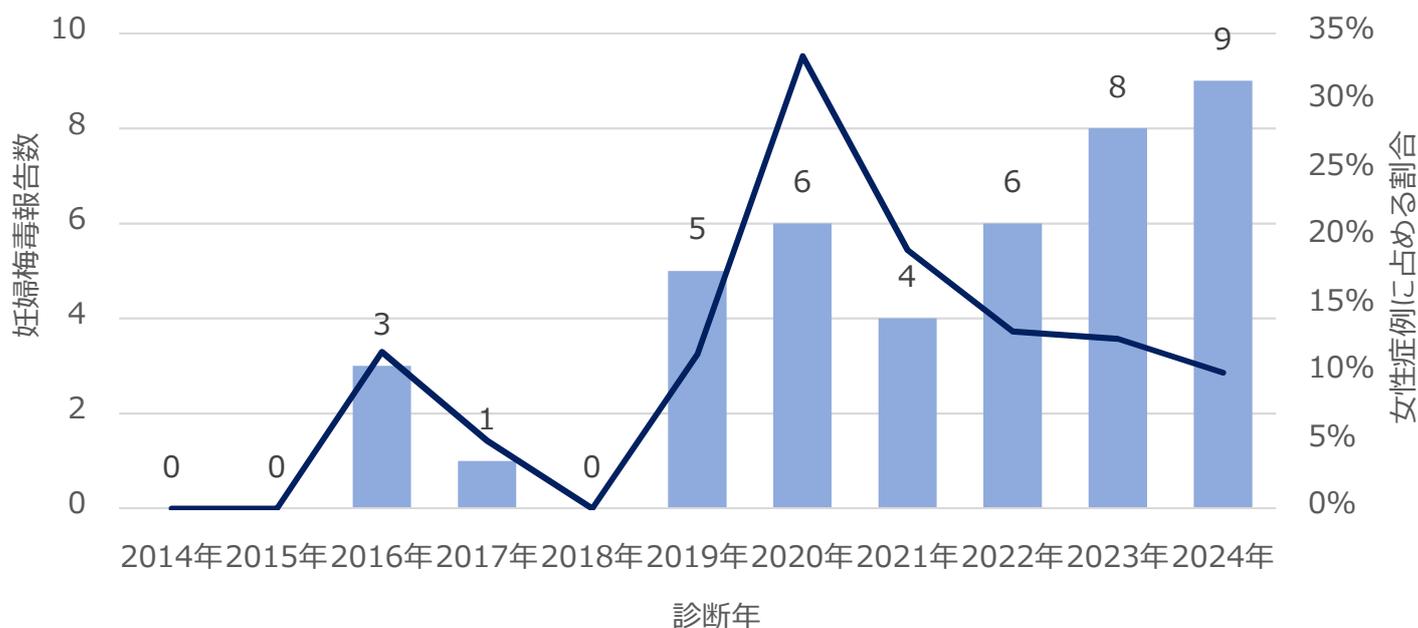
【女性】



## 妊婦梅毒

- 茨城県内における妊婦梅毒報告数は、2021年以降増加傾向にあり、**2024年の報告数は2014年以降、過去最多**となった
- 一方、梅毒女性症例に占める妊婦症例の割合は2020年以降、**年々減少傾向**にある

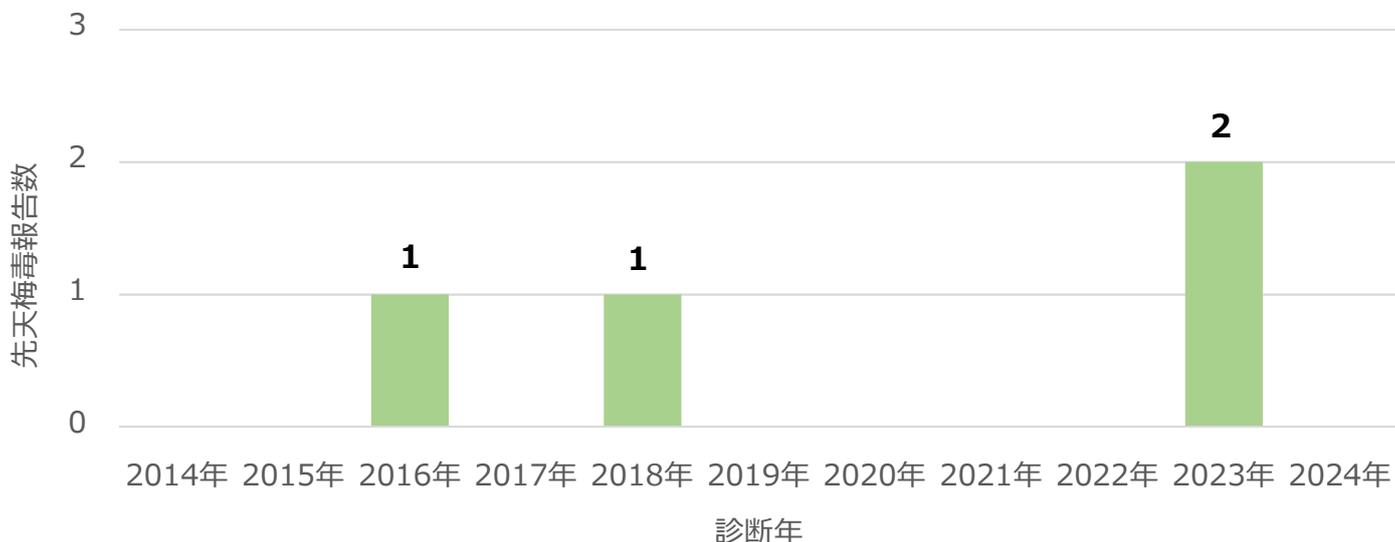
茨城県内における妊婦梅毒報告数（2014年～2024年）



- 2019年～2023年3月10日までは、感染症発生動向調査システムに登録された梅毒症例のうち「疾病共通備考欄」または「その他事項」の欄に「妊娠」の記載が含まれるものを抽出
- 2023年3月11日以降は、感染症発生動向調査システムに「妊娠の有無（女性のみ）」の欄が追加となったため、当該欄より抽出

## 先天梅毒

茨城県内における先天梅毒報告数（2014年～2024年）



# 茨城県における2024年に報告のあった梅毒症例のまとめ

- 茨城県における梅毒報告数は、年々増加傾向にあり、**2024年の報告数は324例と過去最多を更新した**  
一方、国内における2024年の梅毒報告数は、前年よりも微減（15,078例 → 14,663例）した
- 管轄保健所別では、土浦保健所管内医療機関からの報告が最も多く、**県南地域（土浦・竜ヶ崎・土浦）における報告が、県全体の半数以上を占めた**
- 梅毒症例の男女比は、7：3と前年と比較すると**女性の割合が増加**したが、年代別の傾向はおおむね例年と同様の傾向であった
- 梅毒症例の病型は、前年と比較すると「**無症候**」の割合が増加（**15% → 27%**）した  
また、男性は「早期顕症Ⅰ期」、女性は「無症候」「早期顕症Ⅱ期」が多いという**性別による傾向の違い**が確認された
- 梅毒症例の感染経路は、「**異性間の性的接触**」が最も多く、2020年以降、その割合は増加傾向にある
- 性風俗従事歴・利用歴については、男性のほうが「利用歴あり」の割合が高く、女性のほうが「従事歴あり」の割合が高かった
- 2024年の**妊婦梅毒症例数は9例と2014年以降、過去最多**となり、2024年の先天梅毒報告数は0例であったものの、先天梅毒の発生が懸念される

